

令和6年度 自己評価表(案)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1ランク上を目指す進学指導・就職指導を柱として、地域連携や探究学習、語学学習を推進し、基本的生活習慣の確立、部活動の活性化によって自律心と自己有用感を育み、主体性と創造性を伸ばす。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり 5 業務カイゼンへの取組
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				評価結果()月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力, 判断力, 表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	・ICT活用について教員間の個人差がある。 ・生徒のChromebookが十分に利用されていない。	・組織的な授業改善 ・BYADに伴った更なるICT活用	・校内や教科内でGoogle Workspaceやスタディサプリの活用、ループリック評価等について情報共有や研修を行う。 ・Google ClassroomやCANVA等を活用し、生徒のChromebookの利用を増やす。			
			・各系列の特色化と資格取得の促進 ・資格試験合格率70%以上	・系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けて支援する。 ・学校独自事業を充実させ、特別支援学級と交流する。			
			・学習における生徒の主体的な取組	・スタディサプリを活用し、家庭学習習慣の定着を図る。 ・スタディサプリの利用について指標化する。 ・学習時間調査で1日あたり1時間30分以上の家庭学習を目指す。 ・朝読書の徹底(朝読取組100%)			
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	・あいさつをする生徒が増えつつある。 ・自転車通学生徒のヘルメット着用率は低い状況だが、着用する生徒は増えている。 ・遅刻者数は昨年、年度末にかけて減少した。特に安易な遅刻は減らすという意識が高まっている。 ・一部、服装を含め、校則に対して意識が高まらない生徒がいる。 ・SNSに起因する問題行動に対して、迅速に対応している。 ・STAへの短期留学が再開した。 ・生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営をして活動することができている。	・ルールを守りけじめある生活を送る。	・掃除、整理整頓の徹底と挨拶の励行 ・身だしなみ、礼儀に対する日常的な指導と声かけを行う。 ・デジタルシティズンシップ講演、ヘルメット着用啓発運動を実施する。 ・保護者及び地域のボランティアの方と連携し、ふれあい運動を行う。			
			・欠席・遅刻者数が前年度比半減する。 ・安全意識が高まり、自転車ヘルメットの着用率が100%になるよう指導する。	・遅刻確認票による遅刻指導の徹底と保護者との連携			
			・本を自ら準備し、読書の大切さを認識させる。 ・毎月の延滞生徒を10名以下に減らす。	・交通安全週間に自転車ヘルメットの着用指導を行う。 ・生徒会執行部によるあいさつ運動及びヘルメット着用の呼びかけを行う。			
				・安易な欠席・遅刻を減らすことを求め、皆勤を奨励する。 ・遅刻確認票による遅刻者指導と保護者連絡を行う。 ・生徒アンケートに基づいた店頭選書を実施する。 ・督促状を発行する前に各教室で声かけを行う。			
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	・生徒が校内外の様々な活動に積極的に取り組む。 ・学校生活をより良くするための活動を企画・実施する。 ・生徒が部活動に積極的に参加する。		・姉妹校との国際交流の継続 ・様々な活動に関する情報発信 ・生徒の活動を紹介することによる参加意欲の喚起 ・ボランティア活動の推進			
				・生徒の委員会活動と連携したあいさつ運動を行う。学期末に全校で校内清掃を行う。			
				・生徒会執行部を中心とした生徒会行事等の活動を充実させる。			
	○支援が必要な生徒への援助	・生徒生活アンケートで、自己肯定感が高い生徒が80%を超えている。	・生徒情報を教員間で共有・把握し、適切な支援ができる。 ・豊かな人間関係を築き、生きる力を育む。	・個別の面談や各種アンケートを通じて、生徒の困り感に寄り添う。 ・日常的に情報を共有し保護者と連携する。			
				・特別支援教育に関する校内研修、情報共有、外部関係機関との連携により、適切な支援、対応を行う			
				・生徒が主体となり、活力のある人権学習を構築する。			

3	自己実現のための進路指導の充実	○探究学習の充実	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に務めている。 ・「産業社会と人間」から「総合的な探究の時間」の系統性を検討している。 ・令和5年度は、大学進学38名(内国公立7名)の結果であり、就職29名(内公務員3名)であった。 ・特に就職希望者へのフォローが主目的である2年次生への進路ガイダンスおよび企業見学が実施できた。 ・岡山・広島・山口への先進校視察を実施し、スタディサブリ導入など視察を反映した新たな取り組みを実施した。 ・学習成果発表会で発表内容を更にブラッシュアップしていきたい。	・進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成 ・学習成果発表会の発表内容の充実	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化 ・外部との連携および先進校、先進地域の手法を取り入れた探究活動の充実 ・スタディサブリ活用による学習意欲の喚起と主体的な学習態度の育成 ・自らの成長を実感できる取り組みとして、キャリアパスポートを活用した進路指導を実施 ・学習成果発表会における外部評価に値する研究成果の充実			
		○キャリア教育の発展						
		○進路指導の充実	・大学進学40名以上(内国公立10名以上) ・教員の進路指導力の向上とスタディサブリを用いた学力向上 ・進路目標に対する具体的な取組(校外模試受験者の増加等)	・外部講師による公務員講座の充実と放課後学習会の実施 ・進路ガイダンスの前倒しによる進路実現活動の早期化 ・各種職場体験の実施による確かな就職先選び ・担任によるきめ細かい面接指導と情報発信 ・探究学習の充実による進路保障 ・面接を提案型にする。				
4	地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献	・地域の魅力を再確認し、地域の活性化に向けた具体的な行動を起こす生徒がいる。 ・文化芸術活動、系列での事業、総合的な探究の時間を通して地域のニーズに積極的に応える。 ・自己有用感・自己肯定感を地域連携によって醸成する。	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス) ・部活動単位におけるボランティア活動等地域への参画 ・系列事業、総合的な探究の時間における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室、夢蔵プロジェクトとの連携) ・ボランティア体験事業、中海清掃、皆生トライアスロンボランティア、ねんりんピックボランティアなどの情報を生徒に提示し、参加を呼び掛ける。				
		○積極的な社会参画と情報発信	・社会に繋がる教育活動を推進 ・ホームページの充実	・高校生出前キャリアガイダンス、夢プロジェクト等地域社会との繋がりによる生徒活動の活性化 ・マスコットキャラクターや総合学科の特色ある取組を活用した各種イベントへの積極的参加 ・総合美術展、学習成果発表会の開催による情報発信 ・ホームページで総合学科の魅力(生徒の主体的な取組と成果)を発信 ・職員全員が1件以上の記事をUPする。				
	業務カイゼンへの取組	○業務の見直しによる時間外業務の削減及びその他の業務時間の確保	・運動部外部指導者、部活動指導員、文化部活動地域専門指導者により顧問の時間外業務の削減、活動の支援等につながっている。 ・月末でのセルフチェックの呼びかけを実施し、業務時間の意識を高めている。 ・共有ファイルの活用、教員業務支援員との連携の意識は高まりつつあるが、個人差があり、継続して取り組む必要がある。 ・令和5年度時間外業務実績平均17.2時間は、前年度の18.2時間を下回ったが、目標の前年度比10%減は達成できなかった。	・時間外業務時間が前年度比10%減 ・長時間勤務者の把握と対策 ・分掌業務の効率化 ・休暇を取得しやすい環境づくり	・各分掌の業務内容・業務分担の見直し及び他分掌との連携 ・平日の電話応対時間の変更 ・勤怠システムのセルフチェック、時間外勤務時間を翌日に入力することで意識付けを行う。 ・部活動顧問の時間外業務の削減(外部指導者、部活動指導員との連携) ・ICTの活用 ・共有ファイルの活用・ダブルチェック・連絡方法の工夫 ・教員業務支援員との連携 ・業務に対する意識改革(長時間勤務者への声かけ) ・帰らーDAY(定時退勤日)、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間の設定			
		○声かけによるサポート						